研究終了報告書

厚生労働科研研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
（分担）研究年度終了報告書

嚥下機能低下に伴う服薬困難に対応するためのアルゴリズム等作成のための研究（　20GA1004　）

調査結果の解析

研究分担者　肥田典子
昭和大学・薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門・准教授

研究要旨：嚥下専門医や専門スタッフがいない在宅医療の現場や施設等において、患者・入居者の服薬の実態を調査する。調査結果をもとに、嚥下困難者の実態に合わせた服薬アルゴリズムを作成する。

A．研究目的

嚥下障害のある患者では口腔内に薬剤が残留していることがあるという報告は比較的多く散見されるが、発生頻度や薬剤の残留が口腔・咽頭のどの部位に発現しやすいかの調査は行われていない。

B．研究方法

①嚥下障害を有する施設利用者の薬の服用方法に関する調査、研究
②服用した薬の口腔内、咽頭・食道残留に関する調査、研究

（倫理面への配慮）

本研究は「ヘルシンキ宣言」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（生命・医学系指針）」を遵守して実施した。昭和大学大学院薬学研究科人を対象とする研究等に関する倫理委員会で承認を得た（承認番号：399 号）。

C．研究結果

①調査対象者のうち、自ら服用が可能であった者は全体の27.8%、服薬介助が必用な者は52.4%、胃ろうからの注入は15.4%の入居者にみられた。
。

②研究対象となった 123 名のうち、口腔内残薬が確認されたのは 4 例（3.3%）であった。

E．結論

口腔内残薬は、介助者による口腔ケアの際に偶然発見されるケースがほとんどである。しかし、医師は限られた一人当たりの診療時間内で、在宅での患者の食事や口腔ケア、服薬状況で詳細に把握することは困難であ
る。患者の日々の食事や服薬状況を観察する介護職、看護師、家族からの情報を取りまとめ、患者に適した剤形をコメディカルから提案することが重要である。

G．研究発表

1.　論文発表：未公表
2.　学会発表：未公表

2022年9月の日本医療薬学会での発表に向けて準備中
（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得　予定なし。
2. 実用新案登録　予定なし。
3.その他　予定なし